

**令和6年度  
自己評価報告書の概要**

令和7年1月30日

**大阪動物専門学校**

# 目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	1
基準 1 教育理念・目的・育成人材像.....	2
基準 2 学校運営.....	3
基準 3 教育活動.....	4
基準 4 学修成果.....	5
基準 5 学生支援.....	6
基準 6 教育環境.....	7
基準 7 学生の募集と受入れ.....	8
基準 8 財務.....	9
基準 9 法令等の遵守.....	10
基準 10 社会貢献・地域貢献.....	11

## 教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和6年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決策
<p>本学は、教育基本法および学校教育法に基づき、動物に関する専門知識、職業遂行に必要な知識および人間と動物が共生できる確かな技術を授け、併せて豊かな人間性を養い、社会に貢献しうる有能な人材を育成することを目的とする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資格取得率の向上</li> <li>2. 就職率の向上</li> <li>3. 退学率の低減</li> <li>4. 学生満足度の向上</li> <li>5. 志願者数・入学者数の増加</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資格取得率は、各資格において、おおむね目標数の合格者を輩出できた。</li> <li>2. 就職率は、動物業界への就職を中心に年間計画通り順調に達成できた。</li> <li>3. 退学率の低減は、年間計画より達成できていない。</li> <li>4. 学生満足度は、コース間で多少差があるがほぼ概ね目標を達成できた。</li> <li>5. 志願者数・入学者数は、年間計画目標を達成できた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資格取得については、各校と連携して、カリキュラムを共有し、小テスト等を実施して試験対策を行なった。</li> <li>2. 就職については、1年生の1月以降インターンシップ、学内学外の企業説明会に参加した結果、目標を達成した。</li> <li>3. 退学率の低減については、学生とのコミュニケーションの時間を面談等で増やすとともに、職員による授業見学によって、学生の様子を観察し、変化の把握に努める。</li> <li>4. 学生満足度については、担任の経験の差および非常勤講師によって授業の質において差があるため、会議等で意思統一を図り、全体的な底上げを図る。</li> <li>5. 志願者数・入学者数については、学生募集活動において本学の魅力を伝えることができた。</li> </ol>

## 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学は、教育基本法および学校教育法に基づき、動物に関する専門知識、職業遂行に必要な知識および人間と動物が共生できる確かな技術を授け、併せて豊かな人間性を養い、社会に貢献しうる有能な人材を育成することを目的とする。これを実現するためにカリキュラム会議において外部委員の意見を参考にし、カリキュラムの編成やカリキュラム内容について見直した。理念・目的・育成人材像は、教職員・学生にも周知徹底しており、学外にも広く公表している。</p> <p>本学の特色は、独自の教育システムである「ゼミ学習」を導入していること。これにより、動物およびビジネスに関する資格を取得し、実習を行うことで幅広い知識と技能を身に付け、動物関連企業のみならず異業種企業に就職している。</p> <p>学校の将来構想について、現状では3～5年にかけては拡大戦略を立てず、既存の学校の内容充実に努めるべきとの結論に達している。</p>	<p>「学生から信頼され支持される学校づくり」を学園の基本目標として教職員一丸となって取り組んでいる。</p> <p>開学以来「ゼミ学習」という本学独自の教育システムを導入している。これにより、明るく楽しい学園生活と資格取得実績、動物系企業をはじめとして異業種企業への就職実績を両立している。</p>

## 基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学園の基本目標として「学生から信頼され支持される学校づくり」を掲げており、教務室、事務室、就職相談室、受付等に掲示している。</p> <p>事業計画としては、少子化などから今は拡大戦略を取らず、既存の学校の内容充実を目指すことが大切と考えている。合格、就職、キャンパスライフの更なる充実を目指すとともに、今後の状況の変化を正確に掴み、的確な判断をすることが必要である。</p> <p>運営組織図があり、それに従って運営されている。各部署には学校の目標達成のために数値目標が明確にされており、各部署の役割と権限、人的体制が整っている。運営組織や意思決定機能は効率的なものになっている。</p> <p>就職指導、資格試験指導、対外活動などで顕著な成果を収めた者は、その都度表彰している。昇進試験時に人事考課をしている。</p> <p>賃金の支払い基準を明確に定め、適正に運用している。</p> <p>日常的な意思決定は、管理職が行っている。学校間の調整は運営本部または部次長会議で行っている。理事会、評議員会、部次長会議、責任者会議、課会議、動物責任者グループ会議といった意思決定プロセスが制度化され、その権限を明確にしており、意思決定システムは確立されている。</p> <p>情報システムについては、学務システム（入試システムおよび学籍管理システム）、経理システムを個々に運用している。また、就職部では求人情報および学生情報をデータベース化し、業務の効率化を図っている。在学生への求人情報の提供、学校が取りまとめる求人への申込をオンライン化し、「就職支援ポータルサイト」として運用している。さらに、インボイス制度や改正電子帳簿保存法に対応するため、電子請求書管理システムの BillOne を導入した。</p>	<p>本学独自の教育システムである「ゼミ学習」を通じて、合格、就職および明るく楽しいキャンパスライフの3本柱を追求することにより「学生から信頼され支持される学校づくり」の実現を基本目標としている。</p> <p>昨今の雇用情勢を受け、採用計画に基づいた必要な人材を確保することが困難となっているため、待遇等の採用条件を見直す必要がある。</p> <p>人事制度、働き方、職場改善などについての提言をまとめるため、人事制度プロジェクトを立ち上げ、定期的に会議を行っている。</p> <p>学務システム（入試システム及び学籍管理システム）、経理システムを個々に運用している。学務システムは、仮想プライベートネットワーク（VPN）を全拠点で結び、セキュリティを強化して運用している。就職部は求人情報と学生情報をデータベース化して業務の効率化を図っている。また、全教職員にパソコンを貸与し情報共有の効率化並びに業務改善に取り組んでいる。学生に対しては Microsoft アカウントを付与し、オンライン授業等行える環境を整えている。</p>

## 基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教務内容は、動物関連業界からの人材ニーズに対応すべく設定し、修業年限で、業界が求めるレベルに到達することを可能にしている。</p> <p>カリキュラムは、年2回開催する教育課程編成委員会での外部委員の意見を参考に、カリキュラム作成委員会において業界のニーズに対応するために必要な科目を体系的に編成している。また、カリキュラム会議においてコースで目標とする資格取得のために定期的な見直しを行っている。</p> <p>ビジナスマナー、コミュニケーション能力などを育成するキャリア教育を実践するため、新入生就職セミナーや企業等と連携したインターンシップ実習の充実を目的とした授業科目を設置している。また、企業の人事担当者を招く学内就職セミナーでは、求められる人物像などの説明を直接学生にしている。平成26年度に文部科学大臣が認定する職業実践専門課程制度が発足して以降、本学は職業実践専門課程の認定を受け、企業等と連携して実践的な演習・実習を行っている。</p> <p>授業運営の適否を判断し、授業システムの見直しをするため、学生による授業評価アンケートを実施すると共に、教育課程編成委員会での外部委員の意見を取り入れている。また、学生相談室を設置して授業に対する不安や悩みなどを担当者が聞き、現場にフィードバックする体制を敷いている。学生の成績評価および単位認定については、その基準を明確に定め、専門課程便覧などで学生にも周知徹底し、厳正に行っている。また、成績評価については本学ホームページ上にも公開している。令和元年度よりGPA算定をするために、システムを改修し導入した。GPAの算定については、ホームページ上にも公開している。</p> <p>各学科で目標とする資格・試験を明確に定め、その合格がより確実になるようなカリキュラム編成をしている。そして、試験終了後カリキュラム会議を開き、次回に反映させるようにしている。</p> <p>学科の育成目標を達成するために授業を行う教職員、専門性、人間性、教授力、必要資格等の諸要件を備えた人材を確保している。教員の専門性や教授力等を継続的に向上させるため、年間を通じての自己啓発研修を実施し、個々のスキルアップを図っている。普段からお互いに他の教員の授業見学を行ない指導方法について検討し、改善を図っている。教職員・非常勤講師の協業体制を構築するため、業務終了後には業務日誌を活用し、報告を受けている。また、役割分担を明確化するための校務分掌一覧を作成している。</p>	<p>動物看護学科は、愛玩動物看護師法が定める養成所として指定を受けている。</p> <p>本学では開学以来、ゼミ学習方式を採用しており、各業界、各職種に対応する専門的な知識を確実にするだけでなく、積極性、協調性、表現力、コミュニケーション能力などの人間性の育成にも力を入れている。新入生就職セミナーでは、挨拶の練習、職員による講座、外部講師による講演等を通じて、社会人としての意識を高める取り組みを行っている。1年次に、約1週間のインターンシップを企業等と連携し行っている。</p> <p>学生相談室では学生ばかりでなく、保護者からの質問や相談も受け付けている。匿名の電話による方法も可とし、気兼ねなく質問や相談ができる体制を組んでいる。</p>

## 基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学では、就職率 100%を目指している。就職部担当者と各クラス担任が連携して学生の指導にあたっており、動物関連企業を中心に民間企業にも正社員として学生が就職している。</p> <p>資格取得については愛玩動物飼養管理士認定試験、全日本グルーミング検定、ドッグサイエンスアドバイザー試験、ビジネス能力検定（ジョブパス）、サービス接遇検定、ペットフード/ペットマナー検定、家庭動物管理士試験等において資格取得率の向上を図っている。また、各検定試験において制度改正がある場合には、その内容にすぐに適応できるように体制を整えていく。</p> <p>卒業生は本学で養った専門知識や技術、豊かな人間性を生かし、広く社会で活躍している。在生もアジリティ競技会やペット関連イベントに運営スタッフを行っている。卒業生の社会での活躍を在生や入学志望者にも知らせる必要がある。</p>	<p>新入生就職セミナーをはじめ就職・公務員ガイダンス、自己理解セミナー、学内就職セミナー、インターンシップ等を行っている。学内就職セミナーには各業種の企業等に参加していただいている。</p> <p>学科・コースごとに目標とする試験や資格を明確に定め、過去の経験に基づき綿密なカリキュラムを組み立てている。その結果、ゼミ学習を通じた授業運営が成果となりあらわれている。</p> <p>また、学園内各校と定期的に合格率向上を図るための会議を開いている。</p>

## 基準 5 学生支援

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職相談室を設け、就職部担当者及び各クラス担任が学生の就職相談、履歴書の書き方、就職先の選択、企業訪問、面接対策、インターンシップなどの指導を行っている。また、企業の人事担当者を招き学内就職セミナーを実施している。</p> <p>一人も退学者を出さず入学学生全員を卒業させることが最終目標である。そのために担任をはじめ教職員が学生全員に目を配り、声かけを行うことで、学生の状況について日々確認している。また、Microsoft Forms にて学校生活アンケートを実施し、退学率の低減に努めている。</p> <p>学生は、様々な悩みを持っており、それらの相談はまずクラス担任にするが担任に話せない事柄もある、その時は、学生相談室が設けられているので学生は相談室の担当者に相談している。学生の学業を全うさせるため、経済的諸問題の解決を支援する必要がある。そのために、特別奨学生試験、各種特待生制度や学費延納制度を設けている。令和2年度よりスタートした高等教育の修学支援新制度対象校として大阪府より確認されている。</p> <p>学校保健安全法に基づく健康診断を全学生に実施している。また、指定病院に健康相談を行うことができる。野球部、サッカー部、トレーニング部、ダンス部、SNS 部、ドッグスポーツなどのクラブ活動や体育祭、学園祭、球技大会などの課外活動が盛んであり、学生主体で実施し、教職員が助言、指導をしている。</p> <p>遠隔地出身者のための学生寮などの学生に対する生活環境支援は必要であり、本学では学生寮運営に実績のある企業に依頼し学校提携寮として遠隔地出身者に紹介している。また、学生マンションの企画、管理、仲介を全国的に行っている企業と業務提携を行っている。</p> <p>学生に対して適切な指導、相談を行うためにも、出席状況、成績表を年に2回、学生相談室、就職相談室のお知らせ等を年に3回保護者に送付している。また必要に応じて保護者と直接連絡をとり、保護者または学生と保護者を交えて面談を行い、学生の指導に役立てている。また指導の記録は、学務システムに記録している。</p> <p>同窓会の組織化、卒業生のフォローアップ体制の整備は、ともに今後検討すべき課題である。卒業後の再教育プログラムの整備、社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備についても今後検討すべき課題である。</p>	<p>学生の希望に沿ってインターンシップを実施している。これによりペットショップ、動物病院、ペットサロン、犬の訓練所をはじめ動物業界の就職先開拓につながっている。</p> <p>就職支援ポータルサイトを運用し、求人票のリアルタイムの閲覧、エントリーの一元化、就職部と学生の連絡手段の新設により学生が就職活動をスムーズに行えるようにしている。</p> <p>担任に話すことが難しい場合に備え、学生相談室を設置しており、匿名の電話またはオンライン相談でも相談できるようにしている。退学者を出さないように常に担任が学生に声をかけ、学生が楽しく学校へ来られるように教職員が心掛けている。</p> <p>無断欠席者には、担任が学生本人および保護者への電話連絡、出席状況のお知らせ等の書類送付で保護者とも連携を図り、欠席が長期にならないようにしている。</p> <p>本学の特別奨学生試験、各種特待生制度は貸与ではなく学費減免である。</p> <p>保護者からの相談はクラス担任だけでなく、学生相談室や就職相談室も利用できるよになっている。</p>

## 基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設・設備は学生の教育上支障がないように整備されている。パソコンは、5年毎に更新している。今年度は、DR方式のレントゲン現像器を購入、ルーミング実習室の配線設備の工事を行った。今後も施設・設備の更新計画を検討する。</p> <p>ペット関連イベントの見学、アジリティ大会、ドッグショー見学、動物関連施設等の学外実習、インターンシップ、高齢者施設でのドッグセラピー活動、ペット旅行研修を実施するなど十分な教育体制を整備している。</p> <p>防災指導担当者を校務分掌一覧に規定し、定期的に避難訓練等を行っている。</p> <p>危機管理マニュアルが存在していないため作成し整備する。また作成後、教職員に周知徹底を図っていく。</p> <p>X線装置を専用室で防護ボックス内に設置しており、定期的に漏洩検査を行っている。</p>	<p>災害時対応のみならず、不審者対応も含め危機管理マニュアルを作成し、対応する。法令に準拠して見直しをしていく必要がある。</p> <p>今年度の避難訓練については、大阪市消防局指導の下、実施し、避難経路、避難場所の確認を行った。</p>

## 基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>入学案内書やガイドブック作成にあたってはその内容や表現において、真実性、明瞭性また法令遵守が必要であることを認識し広報を中心に作成している。そのために具体的な数字を示すことや合格者等をイニシャルで掲載することにより、志望者や保護者からの信頼が得られる内容となっている。高校を卒業後すぐに入学される方が多いので、その点にこだわった表現になっている。少子化傾向もあり近年募集定員を満たすことが難しいが、今後も志望者のニーズに合わせた学校運営を行っていく。</p> <p>民間就職実績・公務員試験合格実績に本人の了承を得て企業名・採用試験名・イニシャル・出身校名を掲載している。また、真実性の観点から単年度の資料を作成しているのは、適正に現状を志望者や保護者に伝えるためである。</p> <p>入学者に対するアンケートを実施し、その結果、卒業生の活躍が入学にあたりとても参考になったという意見もあった。</p> <p>入学選考は大阪府専修学校各種学校連合会の規定に沿って作成した募集要項により適正に選考を行っている。提出された入学願書の志望理由を中心に調査書・成績証明書等を参考にして本学教育内容の理解度や入学後の熱意を把握し合否の判定をしている。</p> <p>学納金に関しては学校の財政基盤に問題が出ないように適正かつ妥当な金額に設定されている。</p>	<p>本学のホームページは、スマートフォンへの対応も行っているため、スムーズに情報が入手できる。また、ブログ、LINE 公式アカウント、X、Facebook、Instagram、YouTube を利用した情報提供を行っている。</p> <p>オンラインによるオープンキャンパスや進路相談会を行っている。</p> <p>AO入学に関しては本学のアドミッションポリシーを基準として面談を行っている。本学教育内容の理解度、入学後のやる気を中心に合否の判定を行っている。</p> <p>留学生に関しては専門の職員を置き、留学生全員に筆記試験・作文試験・面接試験を行い日本語能力、経費支弁能力、日本語学校の出欠席等を基に入学選考を適正かつ公平に行っている。</p> <p>法人単位での財務情報の公開体制を採っており、学納金が適正かつ公正に使用されていることを明らかにしている。</p>

## 基準 8 財務

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>近年の定員充足率の減少傾向に的確に対応するためにも、中期的な入学者数の予測や事業計画との整合性の十分にとれた実効性のある中期計画策定が望まれる。</p> <p>事業活動収支差額の状況、主要な貸借対照表比率等から判断するに、今後、財務基盤の安定化にさらに努めていく必要がある。</p> <p>予算の編成および執行に関する規程は、寄附行為、経理規程に定められている。予算の編成は適切手続きを経た上で確定し、予算を執行している。</p> <p>法人寄附行為に基づき監査を実施し、その結果は監査報告書に記載し、理事会および評議員会へ報告している。</p> <p>財務情報の公開は、私立学校法の規定に基づき財務情報公開規程を定め、開示請求に対応する体制を整備するとともに適切に公開している。</p>	

## 基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>「学生から信頼され支持される学校づくり」を基本方針に、教職員に対し法令遵守規程を設けて徹底させ、必要に応じて研修等に派遣したり、資料を配布するなど、法令や設置基準を遵守するために法令遵守規程を作成し実施している。また、学生に対しても入学時に配布する専門課程便覧に「ソーシャルメディアガイドライン」、「ハラスメント防止ポリシー」を記載して法令、道徳指導を適宜実施している。</p> <p>個人情報保護に関しては、特定個人情報管理規程、個人情報保護規程、プライバシーポリシーを設定している。また、学校の保有する情報を委託業者に取り扱わせる際も覚書等で保護の徹底を行っている。また、教職員には規程の遵守はもとよりインターネット使用時の暗号化なども徹底し、学生には担任を通じて個人情報の取扱いについて注意喚起を行っている。</p> <p>本学では「自己点検・自己評価委員会」を設置し、特定非営利活動法人 職業教育評価機構の基準により自己点検・自己評価を行っており、その結果を「自己評価表」としてホームページ上で公開している。</p> <p>学校関係者評価委員会報告書をホームページに掲載している。</p> <p>学校情報は、文部科学省のガイドラインに従い、ホームページにて公開している。</p>	<p>大阪法務局 大阪第一人権擁護委員協議会より講師を招いて人権研修を実施している。また、法令遵守推進管理者をおき、法令遵守の推進を図っている。</p> <p>学生の個人情報を利用する場合には、教職員より学生に趣旨を説明し、文書にて承諾を得た上で、個人情報を取り扱っている。しかし、定期的に情報セキュリティ研修を実施する必要がある。</p> <p>自己評価表はホームページに公開するとともに、学校関係者評価委員会で報告し評価をいただき、その結果もホームページに公開している。</p>

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>地域との連携、交流、諸外国の学校などとの連携、社会問題についての啓蒙などが社会貢献となり、また学校の発展につながるという観点で、高齢者施設でのドッグセラピー活動や家庭飼育犬をモデル犬として無料でグルーミングを実施している。また、学園祭に家庭飼育犬オーナー様を招待し、本学の講師による「ワンちゃん講習会」をはじめ様々なペット向けの催し物を開催、そして浜寺公園振興協議会から依頼を受け、浜寺ローズカーニバルで犬のふれあい広場を設置し、地域との連携を行っている。</p> <p>重要な社会問題については、学生へ情報提供し、学校全体で省エネ、エコ活動に取り組んでいる。</p> <p>生涯学習については単に事業としての検討だけでなく、地域社会への貢献としてとらえ、大淀中学校や近隣の中学校から動物の仕事に興味を持っている生徒のインターンシップを引受け職業体験の実施をしており、学園祭では地域住民の方を招待し地域活性化に協力している。また、キャノンメドテックサプライ株式会社や学際企画の依頼を受け、獣医師向けのエコーセミナー会場として実習室を提供し、当日は動物看護コースの学生がサポートに入った。今後も継続して地域や企業との連携をしていく。</p> <p>諸外国の学校などとの連携については、今後どのように外国の学校との連携が可能かどうかを検討していく。</p> <p>学生のボランティア活動を奨励、支援し、その活動状況を把握し評価している。</p>	